

「みんなで作る」から始まった道の駅。

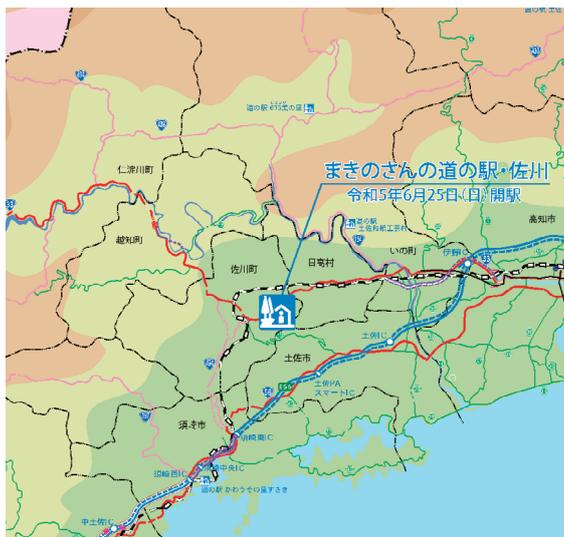
～【高知県の国道 33 号に道の駅「まきのさんの道の駅・佐川」ができました～

四国地方整備局 土佐国道事務所

1. はじめに

道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々への「情報発信機能」、そして市町村が手結び活力ある地域づくりを共に行う「地域の連携機能」。この3つの機能などを併せ持つ施設として、平成5年に「道の駅」の登録制度が始まりました。平成5年4月、鳥取県に道の駅第一号「大栄」がオープンしてから約30年が経過した現在、道の駅は全国で1,209駅にまで広がりを見せ、四国でも90駅、高知県内で25駅が登録されています。

今回は、NHK連続テレビ小説「らんまん」（2023年4月3日～9月29日放送）主人公のモデルとなった植物学の父、牧野富太郎博士の生誕地佐川町にオープンした「まきのさんの道の駅・佐川」についてご紹介します。



まきのさんの道の駅・佐川の位置



施設外観

2. 立地場所について

佐川町は、高知県の中西部に位置し、豊かな森林と清流に囲まれた自然豊かな中山間地域です。道の駅は地域の幹線道路である一般国道33号沿線にあります。道の駅近傍にはJR土讃線の特急停車駅（佐川駅）や国道494号を經由して四国横断自動車道須崎ICに約15分で繋がる交通の要所になっています。また高知市から約50分の距離にあることや、高知県内の国道33号に道の駅がなかったことから、効果的に休憩できる施設として道路利用者に高い需要があるものと期待されています。



周辺ネットワーク

3. 「みんなでつくる」から動き始めた道の駅事業化

「まきのさんの道の駅・佐川」は、住民からの要望を受けて平成20年代半ばから検討してきた経緯があります。事業が具体的に動き始めたのは、平成26年度から27年度にかけて策定した「第5次佐川町総合計画」において「みんなでつくる」をテーマに分野別、世代別、地区別に住民ワークショップを重ねたことがきっかけでした。明るい未来像を作り上げる中で、産業振興や観光振興の拠点として道の駅建設を望む住民の声が多く挙がり、道の駅を含めた整備目標が佐川町の施策に取り入れられました。

その後も、住民や有識者による検討委員会や様々な分野で活躍する住民の方々と交えたワークショップを通じて佐川町には「地質」「牧野（植物学の父）」「林業」という個性があること。これらの個性から「野菜」「野草」「花」「森林」が連想され、基本コンセプト「植物が中心にある町」が生まれました。

運営コンセプトについても地元の特色を活かしていけるものが採用されました。地質学発祥の地とも呼ばれる佐川町から連想される言葉「地層」は、「馳走（ちそう）」と同じ響きを持ちます。馳走とはおもてなしの心です。佐川ならではの「ごちそう」で皆さんを温かくもてなしていきたいという思いから、運営コンセプトとして「ごちそう佐川」が採用されました。こういった話し合いの中で、道の駅には町民の豊かな生き方を表現できる場所になっていきたいという期待を込め名前は「まきのさんの道の駅・佐川」が採用されました。

「まきのさんの道の駅・佐川」の展開（案）

さかわ84の森

町民が自ら開拓する「自伐」により隣接する山の手入れをする。「人」と「森」が近い関係にあるニッポン。「さかわ84の森」と名付け、人が散策する森を作る。

牧野公園

公園を散歩すれば、野の花の名前がわかる公園
Makipediaを使いながら、野の花インスタ
ラクターが「まきのさんの野の花ツアー」を実施。

まきのさんの花工房

牧野さんに因んだ四季折々の花を栽培し、全国に宅配便でお届けするまきのさんの「花便り」。花専門、宅配用のパッケージを開発し、宅配システムを作る。

酒蔵ウォーキング

酒蔵の風景がある楽しい街並み「佐川」を歩く。
84ひのきの1号升で、酒の気分で給水しよう！
酒の本場で気分だけでも。

84DIY 工房

町内外の人が木の加工ができる工房
さかわ発明うぼや民間企業の協力により
木工加工関連のプロジェクトを集積し
「おもちゃミュージアム」と運動させる。

84 おもちゃミュージアム

高知の84材を使ったおもちゃとなると
さらにミュージアムの意味が出てくるだろう
おもちゃミュージアムの冒頭に84を付けたネーミング
としたい

雑草という名の
植物はない
デジタルアプリ
Makipedia

佐川町で作るオリジナルアプリ
QRコードで牧野植物の解説・
ストーリーを閲覧できる。



まきのさんの 道の駅 佐川

CONCEPT

この町のアイデンティティ

植物が中心にある町。
草木に関心を寄せる町。
来訪者に土地のものを売るだけでなく
町民の豊かな生き方を表現できる場所。
町の理念が漂う場所でありたい。
生涯学習の場として位置付ける。

SDGs

国連採択17の目標SDGsは、当然ながら国の農政にも影響を与えている。
「村の価値を認め合う社会」というフレーズが見られるようになった。
佐川町の「植物を中心に考える町」は、まさにSDGsのベースの上にあるもの
道の駅として後発であることのメリットを生かして
SDGsがベースにある構想としたい。

佐川町道の駅「基本計画」より抜粋

物販（佐川産）

地元産品が60%あれば全体印象が「佐川」産となる。
ここが大事。仕入れ商品があるとしてもそのチョイスに一定の
ガイドが必要！

まきのさんの ごちそう（地層）シリーズ

特異な地質構造帯に位置する佐川に因んだブランド。
ごちそうシリーズ。
■ごちそうサンド ■ごちそう鱈重 ■ちそうフィッシュ
■ちそうクーヘン ■山椒もち ■山椒みそなど。
レベルアップが必要！

まきのさんの台所（食堂）

「食べる場所」ではなく「作る場所」を表すネーミング
にすることで、牧野さんの研究のようにおいしさを生み出す
ワクワク感を、食堂のコンセプトにしたい。
■まきのさんのお弁当 ■まきのさんのいちごミルク
■まきのさんのお惣菜 ■まきのさんのいちごミルク・生
■まきのさんのサンド ■まきのさんのグリーンソフト

まきのさんの本棚

食堂の一角に、牧野さん関連の本、資料のコーナーを！
ミュージアムショップ的なスペースの検討。
牧野植物園の協力も。

まきのさんの 野菜市場

いろんな時代の地層へ多様な植物や野菜
適地適産の佐川。ケミカルを減らした野菜
を物販のメインとして販売する。

さかわ地質館 5億年前の地層

特異な地質構造帯に位置する佐川。
大切なコンテンツだが、展開しにくい。
スティックな専門領域のコアなオーディエンスを
うまく取り込み、特別な場所としてのイメージを
むしろ積極的に出していく。町が立体的になる。

4. ごちそう佐川でおもてなし

おもてなしの心、「ごちそう佐川」を運営コンセプトとして、この地域唯一の道の駅としての特色を活かしたアクションが進められました。その結果、仁淀川流域の新鮮な野菜などの産直市や特産品を活かした地場産品、地酒を取り揃えた土産店はもちろん、地元食材を取り入れたバウムクーヘンを製造・販売するショップやレストラン、ベーカリーを備えた【ごちそう】が一挙に集う道の駅になりました。



清流仁淀川流域の新鮮な野菜が集う直売市



創業 400 年を誇る酒造メーカーをはじめ様々な地酒を販売



道の駅限定メニュー 佐川猪の塩胡椒焼き定食



駅内で作られている「ごちそうbaum」

「ごちそう」は食べ物だけにとどまりません。本館の南側には芝生広場などでゆったりとした時間を過ごせる空間を創出しています。また、道の駅に併設された「佐川おもちゃ美術館」では、木のおもちゃに触れながら楽しく学ぶことで1日を楽しめます。佐川町では、町内で生まれた赤ちゃんに木のおもちゃを配布し、積極的に木育活動を行っています。その文化に触れることができる館内では、佐川町産、高知県産の木材がふんだんに使われており、佐川町出身の植物学者、牧野富太郎博士にちなみ、草花のおもちゃで遊べる「まきのさんの花畑」や、化石をイメージした積み木で遊べる「まきのさんの山」などがあります。対象年齢は「0～100歳」に設定されており、どなたでも地域を親しむことができる仕掛けがたくさん用意されています。



佐川おもちゃ美術館



芝生広場

これら以外にも仁淀川流域の魅力を伝えるパンフレットコーナーが充実しています。また総合案内なども利用出来るため、道の駅を拠点とした仁淀川流域の観光活性化を目指しています。ところで、佐川町は化石の宝庫として知られている地域です。総合案内付近は佐川町の地層をモチーフにした壁になっており、壁には化石が埋め込まれています。立寄った際には楽しみの一つとして探してみても如何でしょう。



総合案内と地層をイメージした化石入りの壁



地域毎に充実したパンフレット

5. 安心と信頼の享受（いざというときの備え）

佐川町は古くから浸水被害に悩まされてきた地域です。昭和50年の台風5号では、町中心部の約70%が水没したほか、土石流や山腹崩壊が発生し甚大な被害を受けました。また、30年以内の発生確率70～80%とされている南海トラフ巨大地震による佐川町の被害想定は、最大で震度7に達すると予測されています。高知県の被害想定によれば、倒壊や火災などにより被災する建物は1,400棟、死者数90人、負傷者数が760人となるほか、1日後の避難者数（避難所以外への避難も含む。）は、2,000人以上に上ると推計されています。こうした被災者への速やかな救援や、県沿岸部に対する後方支援助地としての機能も同時に求められた場合、道の駅を防災用地として対応できるようになっています。

6. おわりに

「まきのさんの道の駅・佐川」の整備中に、うれしいニュースが高知県を駆け巡りました。NHK「連続テレビ小説」第108作目に牧野富太郎博士がモデルとなったという記者会見でした。高知県が舞台になるのは昭和63年以來の35年ぶりのことでした。記者発表以降、全国から町歩きなどのツアーが組まれたり、牧野富太郎博士のゆかりの方々との交流を経て、地元はにわかに活気付いていきました。そして、令和5年6月25日に開駅を迎えました。全国的に知名度が上がったこともあり、行列ができる道の駅として連日の大盛況を博しています。



マスコット「まきちゃん」



開駅のテープカットセレモニー



大盛況の駅内

道の駅制度が創設されて以降約30年となります。道の駅は次のステージに向けて「地方創生・観光を加速する拠点へ」進化する取り組みが求められています。

「みんなで作る」からはじまった道の駅の活気は、進化する取り組みに寄与するものと期待しています。四国・高知にお越しになる際には、是非「まきのさんの道の駅・佐川」へもお立寄りください。